

作成日 2021/12/2

改訂日 2023/2/1

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フロアガラス用マルチクリーナー
製品の名	
製品コード	04-1853-96
供給者の会社名称	株式会社 ダスキン
住所及び電話番号 (担当部門)	大阪府吹田市豊津町1番33号 安全対策部・品質対策室
緊急連絡電話番号	06-6821-5915 コンタクトセンター 電話番号:0120-100-100 FAX番号:06-6835-7775
推奨用途	水で洗える表面の汚れ落とし(テーブル、イス、床、壁など)
製造元	株式会社ダスキン
SDS整理番号	04-1853-96-02

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

健康有害性	急性毒性(経口) 区分に該当しない 皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1 皮膚感作性 区分1 生殖細胞変異原性 区分1B 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓) 水生環境有害性(急性) 区分2 水生環境有害性(慢性) 区分3 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。
-------	--

## GHSラベル要素

## 絵表示

注意喚起語  
危険有害性情報

危険
H315 皮膚刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318 重篤な眼の損傷
H340 遺伝性疾患のおそれ
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H373 長期間にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓)の障害のおそれ
H401 水生生物に毒性
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き  
安全対策

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。  
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
P260 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。  
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
P273 環境への放出を避けること。  
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 応急措置

P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

P310 直ちに医師に連絡すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

P321 特別な処置が必要である。(このラベルの応急処置を見よ)

P333+P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

P362+364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

保管  
廃棄

P405 施錠して保管すること。

P501 内容物/容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学品又は一般名

ノニオン系界面活性剤、溶剤、安定化剤、除菌剤

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合、医師の診察、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを装着している場合、容易に外せる場合は外してから目を洗うこと。

飲み込んだ場合

多量の水を飲ませるなどの処置をする。※無理に吐かせないようにする。吐物が逆流して食道等の粘膜を刺激したり、肺に入ったる恐れがある。

### 5. 火災時の措置

消火剤

散水、噴霧水、一般の泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、砂。

周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。

この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤

棒状注水。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

加熱により容器が爆発するおそれがある。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

多量の場合、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

二次災害の防止策

危険でなければ漏れを止める。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

他の製品と混合しないこと。

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

排気用の換気を行うこと。

環境への放出を避けること。

容器に突起物が当たると破損することがあるので注意する。

希釈液は傷みやすいので、できるだけ早く使い切ること。

容器に凹みが生じると完全に戻らないことがある。

接触回避  
衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

酸化剤から離して保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

認知症の方などの誤使用や誤飲による事故を防ぐ為、置き場所に注意する。

使用後は密封の上、冷暗所に保管する。

直射日光、40℃以上の高温、凍結する恐れのある場所での保管は避けること。

安全な容器包装材料

指定した容器以外に移し替えない。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
エタノール	未設定	未設定	TWA -, STEL 1000 ppm

設備対策  
保護具

呼吸用保護具

通常の使用においては特に保護具は必要ない。

必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。

手の保護具

必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。

眼の保護具

必要に応じて個人用の眼の保護具を使用すること。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色透明～淡黄色

臭い

弱い基剤臭

融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 ／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	6-8
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
化学的安定性	通常の取扱いにおいては安定
危険有害反応可能性	情報なし。
避けるべき条件	直射日光、40℃以上の高温、凍結する恐れのある場所での保管は避けること。
混触危険物質	情報なし。
危険有害な分解生成物	情報なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性	計算値 経口	混合物の成分と配合量、及び混合物が経口毒性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分に該当しないとした。
皮膚腐食性/刺激性		混合物の成分と配合量、及び混合物が皮膚腐食性/刺激性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性		混合物の成分と配合量、及び混合物が眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		混合物の成分と配合量、及び混合物が皮膚感作性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分1とした。
生殖細胞変異原性		混合物の成分と配合量、及び混合物が生殖細胞変異原性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分1Bとした。
発がん性 生殖毒性		データ不足のため分類できない。 混合物の成分と配合量、及び混合物が生殖毒性に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分1Bとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		混合物の成分と配合量、及び混合物が特定標的臓器毒性(単回ばく露)に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		混合物の成分と配合量、及び混合物が特定標的臓器毒性(反復ばく露)に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分2(肝臓)とした。
誤えん有害性		データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)	混合物の成分と配合量、及び混合物が水生環境有害性(急性)に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分2とした。
水生環境有害性(慢性)	混合物の成分と配合量、及び混合物が水生環境有害性(慢性)に分類できるかを判定するための濃度限界値より、区分3とした。
残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物、容器	内容物、容器は国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報
国内規制	陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報
	ADR/RIDの規定に従う。 IMOの規定に従う。 ICAO/IATAの規定に従う。 消防法、労働安全衛生法、毒劇物及び劇物取締法に定められている運送方法に従う。 船舶安全法に定められている運送方法に従う。 航空法に定められている運送方法に従う。
15. 適用法令	
消防法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	第一種指定化学物質 ホリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が十二から十五までのもの及びその混合物に限る。)1%
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)【61 エタノール】10%未満 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)【61 エタノール】10%未満
毒物及び劇物取締法	非該当
16. その他の情報	
参考文献	・GHSに基づく化学品の分類方法 JIS Z 7252 (2019) ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 -ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253 (2019)
その他	・原料メーカー発行の原料の安全データシート(SDS) 本データシートは、化学製品の工業的な一般取扱いに際しての安全な取扱いについて最新の情報を集めたものでありますが、万全を期しているわけではありません。新たな情報を入手した場合は、追加または訂正されることがあります。化学製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用するときは、自社にて安全性の評価を実施してください。
	本データシートは、保証値ではありません。